

# (別紙2) 提 言 ポ イ ン ト

## 環境問題に対する基本認識

### 1. 環境に対する認識

- <地球環境> 地球環境問題が将来の人類の生存を脅かす重大な制約条件となることを深く認識すべき。
- <自然環境> 健全な生態系は、人類の生存基盤。積極的な自然環境の保全・回復による健全な生態系の維持が必要。
- <生活環境> 「安心」(健康、安全)と「ゆとり」(アメニティー、景観・文化)や「個性」の実現による生活の質の向上が重要。

### 2. 人間活動と環境問題

- ・大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムが環境に多大な負荷。その影響が地球規模にまで及び、我々は人類史上はじめて「地球の限界」に直面。今、まさに環境問題に取り組むことが我々の責務。従来とは画然と違った取り組みが必要。
- ・今日の環境問題は人間活動に起因。その解決には行政等だけでなく多様な主体が共通の認識のもと、高い意識を持って具体的に行動を起こすことが極めて重要。
- ・国民が環境に高い価値を認め、環境保全にかかるコストを負担するシステムや、各主体の間の合意形成システムなどを含む社会システムを築くことが重要。

## 環境面から見て望ましい国土づくりの基本的な方向

- ・国土は、人間活動の基礎であるとともに、自然環境や生活環境を形成。
- ・できる限り地球環境への負荷が小さいような持続可能な社会の基盤となる国土を形成することが重要。

### 1. 環境面から望ましい国土の姿とは ~自然と共存しうる循環型国土の形成

- ・豊かな自然を享受しつつ、将来に継承するとともに、自然界の物質循環や生態系への負荷の小さい諸活動の営みを可能とし、持続可能な社会の基盤となる国土(循環型国土)を形成していくことが必要。
- 各地域においては、次の点に留意しながら、循環型で自然豊かな個性ある地域づくりを進めるとともに、それらの地域が有機的に連携した国土構造の形成が重要。
- 行政区画にとらわれない地理的・自然的条件によるまとまりを意識した地域づくり
  - ・行政区画にとらわれないランドスケープ、自然の物質循環、生態系のまとまりを重視した地域づくり
- 自然と共存しうるコンパクトで美しい都市づくり
  - ・人口減少も見据え、都市的土地利用の高度化を図り、省資源、省エネ型のコンパクトで美しい都市づくり
- 中山間地域等における豊かな自然の保全とそれを支える地域づくり
  - ・循環型国土の先進空間で、かつ、国土保全上も重要な中山間地域等の豊かな自然の保全と、それを支える地域コミュニティ形成につながる地域づくり
- 自然環境の保全・回復
  - ・国土の中の様々なレベルのエコロジカルネットワークの回復等、積極的な自然環境の保全・回復

### 2. 各主体との協働による地域・国土づくりの必要性

- ・以下の理由から、国民、NPO、専門家、企業、行政等が適切な役割分担の下に協働して個性ある地域づくりに取り組むことが必要。
  - 環境問題は人間活動に起因、国民や企業の高い意識と行動、各主体の連携と役割分担が不可欠。
  - 地域のあり方や役割分担については、地理的・自然的条件等各地域の事情を踏まえた各主体の合意形成が必要。
- ・地域の取組みの中でノウハウを蓄積、それを全国へ普及し、協働による地域づくりの仕組みを定着していくことが重要。

### 3. 国民や企業の高い意識を醸成し行動を促すための施策の方向性

- ・国民や企業の環境意識を醸成し、行動を促すために以下のような方向性による施策の展開が重要。
  - (1)環境教育及び人材の育成・確保 (2)各主体間の情報共有、(3)地域づくりの活動に関する環境面からの評価・指標の提示、(4)市場機能の活用など環境に関するコスト負担システムや合意形成システムづくり

### 4. 建設省(国土交通省)に求められる視点・姿勢

- ・環境施策に取り組む建設行政の視点、姿勢を以下のように転換していくことが極めて重要。
  - (1)地域や国土全体の望ましい姿から考える視点
    - ・施設を整備・管理する立場からの視点に加え、地域や国土全体という面的な広がりの中で総合的に望ましい環境から考える視点
  - (2)トータルとしての環境負荷削減の観点から住宅・社会資本の整備・活用のあり方を考える視点
    - ・どうすればトータルとして環境負荷の小さい形で国民が必要なサービスを受けられるかを常に念頭において、既存ストックの有効活用や長寿命の新規施設整備など、整備・活用のあり方を考える。
  - (3)多様な主体と協働して取り組む姿勢
    - ・ハード面のみでなくソフト面での施策も含めて考える。特に、多様な主体との協働による取組み。
  - (4)国民や企業の環境意識を醸成し行動を促すための基盤づくり
  - (5)モデル地域における先導的取組み(例:流域圏を単位とした協働の取組み)
    - ・社会実験などの先導的な取組みを推進、さらに地域づくりにおける協働の取組みの仕組みを全国に広げる。

## 自然と共存しうる循環型国土の形成に向けて

### 1. 自然と共存しうる循環型国土の形成に向けた地域のとらえ方

- ~行政区画にとらわれない地理的・自然的条件によるまとまり
- ・環境面から見てまとまりのある流域、丘陵、海岸線等の具体的なランドスケープによる単位を重視した地域づくりが重要。

### 2. 環境面から見て望ましい地域の姿

- ~コンパクトで美しい都市づくり、中山間地域等における豊かな自然の保全とそれを支える地域づくり、積極的な自然環境の保全・回復等

- (1)環境負荷の小さいコンパクトで美しい都市づくり
  - ・環境と調和した美しい都市づくりに向けた具体的な方向性、方策
  - 省資源、省エネ型のコンパクトな都市づくり
  - 美しい都市景観の形成
  - 大都市、地方都市の実情に応じた環境の向上
- (2)中山間地域等における豊かな自然の保全とそれを支える地域づくり
  - ・中山間地域等の豊かな自然の保全に努めるとともに、それを支えるコミュニティの形成を図ることが必要。さらに、地域が有する自然環境、文化等の資源を再発見し、これを活用した独創的な地域づくりを進めることが重要。
- (3)都市内を含めた地域全体における積極的な自然環境の保全・回復
  - ・全国レベルの多元的な「エコロジカルネットワーク」、「エコ回廊」といったものを計画的に形成していくことが重要
- (4)リデュース、リユース、リサイクルのための具体的システムづくり

### 3. 環境面から見て望ましい国土全体の姿

- ~環境負荷の小さい地域間交流や物流等のネットワークの実現
- ・環境負荷の小さい地域間交流や広域的な物流を支えるための交通基盤ネットワークの形成や、効率的な省エネ型の交通体系の形成。
- ・IT社会の進展に対応した各地域間の情報交流、連携を支える情報通信ネットワーク実現への支援や物流等の効率化に資するシステムの形成。

### 4. 地球規模の環境変化に備えた防災システム

### 5. 建設省(国土交通省)に求められる新たな取組み

- (1)積極的な自然環境の保全・回復
  - ・自然環境も含めた環境を社会基盤として捉え、望ましい自然環境の保全・回復に取り組むとともに、全国レベルの多元的な「エコロジカルネットワーク」、「エコ回廊」の形成のための具体的な事業や手法の検討。
  - ・都市内や都市周辺での利用の需要の小さくなった土地等における自然環境の回復。
- (2)大都市の大深度地下の有効利用
  - ・大都市の大深度地下の物流、静脈物流等への活用。
- (3)リユース、リサイクルのための具体的システムづくり
  - ・リユース・リサイクルに関する市場環境の一層の整備。
  - ・建設廃棄物に関する情報を各機関で共有できるシステム開発。
- (4)環境負荷削減の観点からの住宅・社会資本や民間施設の整備・活用
  - ・これまで蓄積されたストックを有効に活用し、新たな整備に伴う環境負荷を小さくすることが重要。
  - ・長期耐用型施設や省資源・省エネ型施設整備による環境負荷軽減を進めることが必要。

## 環境施策の展開にあたって

### - 1 協働による取組みの推進

- 1. 環境意識の醸成
- 2. 質の高い情報の提供と共有
- 3. 専門家の役割と人材の育成・確保
- 4. 多様な主体による協働に向けた仕組みづくり
- 5. 建設省(国土交通省)に求められる役割
  - ・建設省(国土交通省)は、国土づくり、地域づくりを実際に行っており、いろいろな行政手段を有している立場から、それぞれの地域の望ましい姿を住民等と協働で考え、それを実現していくことが求められる役割。
  - ・具体的には、
    - 協働の場、仕組みづくり(コーディネーション)
    - 質の高い情報の共有の促進
    - 協働の取組みの支援 等

### - 2 環境施策の基盤構築

- 1. 環境の評価のための手法・指標
  - ・国民にわかりやすく情報を提供するため、環境及び環境への影響・効果の評価のための評価手法や指標の研究開発が必要。
- 2. 市場機能の活用による環境コストの負担
  - ・市場機能を活用し、国民が環境の価値を認めて環境にかかるコストを負担するシステムをつくることが重要。
- 3. ITの活用
  - ・国民の環境に関連する情報入手、交換等にもITを積極的に活用し、国民の意識の醸成や問題解決に役立てるべき。
- 4. 伝統的技術の再認識と地域の特性に応じた技術の開発
  - ・伝統的技術を活用するとともに、地域特性に柔軟に対応する技術、環境負荷の小さい技術を開発することが重要。

### - 3 国際貢献

- ・地球環境の保全は、一国のみでは解決できない人類共通の課題。このため、国際社会においても、我が国がイニシアティブを発揮して、積極的に他の先進国との協力関係を築くとともに、開発途上国に対する人的・技術的支援を行うなど国際貢献を果たしていくことが重要。